

令和2年2月2日

**鹿児島県離島振興協議会主催
アイランドキャンパス事業**

**「中華圏（中国・台湾・香港）女性観光客に対する
ガイドマップ・冊子の作成」**

鹿児島女子短期大学教養学科

近藤朗

黒川太郎

令和元年度アイランドキャンパス事業

成果報告書

鹿児島女子短期大学教養学科

1. 事業名

中華圏（中国・台湾・香港）女性観光客に対するガイドマップ・冊子の作成

2. テーマ

- ・観光で奄美大島を訪問する中華圏からの若年女性のニーズの調査
- ・短大生目線でニーズに見合ったガイドマップを作成

3. 目的

奄美大島には一定数の外国人観光客が訪れているが、島内の観光スポットやアクティビティが十分に理解されているとは言いがたい。近年、海外旅行市場が拡大している中華圏からの観光客についても、中国語の情報、またニーズを満たしうるポイントの情報が提供されているかは心もとない状況である。

日本政策投資銀行南九州支店によると、香港・台湾などの観光客の6割が鹿児島を認知しているのに対して訪問意欲は3割に満たないという調査結果があり、十分に魅力が伝わっていない現状がある。県内の離島にいたっては、それ以上の数値は期待しがたい。

本調査ではそれらの中華圏から来島する、特に若年層の女性観光客に対する奄美大島のイメージ調査や観光の目的・期待などを調査する。同時に、現地関連団体・施設等に対しても現状及び今後の期待などについてヒアリング調査を実施する。調査結果をもとに、ターゲットに対して、よりニーズに即したプランを策定し、観光ガイドを作成する。それとともに、ターゲット層の旅行計画段階における情報収集方法（SNS、ブログなど）も調査し、同じセグメントの未訪問観光客に対して、訪問した観光客自身が魅力的なネット上の情報発信を行いうる施策について提言する。

今回の学外活動により、現在日本でも増加している中華圏からの観光客の動向および要望を把握し、地元観光関連各所側では想定しにくい情報発信プランを女子短大が女子目線で実施することで、観光産業の新たな機会を創出することが期待される。

4. スケジュール

1. 予備調査（台湾樹人医護管理専科学校、令和元年9月10日～17日）
2. 事前打ち合わせ（奄美市役所企画調整課、令和元年9月18日）
3. 現地調査（奄美大島、令和元年10月22日～24日）
4. 作成作業（鹿児島、令和元年10月下旬～11月）
5. 現地調査・報告（奄美大島、令和元年12月19日～22日）
6. 最終作成作業・中国語への翻訳作業（令和2年1～2月）

5. 参加者

鹿児島女子短期大学 教員2名 近藤朗/准教授 黒川太郎/講師

同 学生 6 名 松山美波 若松彩花 永山嬉良々 岩元美羽 (教養学科 2 年)
陳淑静 黄玉婷 (交換留学生: 台湾樹人医護管理専科学校)

6. 活動内容

(1) 予備調査

- ①台湾内で出版されている日本関連ガイドブック等から奄美大島が如何に紹介されているか調査した。(資料 1 参照)
- ②台湾高雄市の樹人医護管理専科学校において台湾若年層の鹿児島・奄美大島および観光に関する意識調査を実施した。(資料 2 参照)

(2) 第一回現地調査 (10月22日~24日)

打ち合わせ時点で2019年9月13日を最後にクルーズ船は奄美大島に寄港しないことが判明した。そのため、当初目的に掲げたクルーズ船客を対象としたアンケート調査の実施は断念した。また、現地で外国人向けに無料で配布されている観光ガイドマップの収集をした。

クルーズ船観光客へのアンケート調査の代替案として、奄美大島市企画調整課と相談の上、島内観光関係機関で聞き取り調査を実施した結果、奄美大島全体を紹介するガイドマップを作成することに計画を変更した。調査では、実際に女子短大生が島内の観光地を見学し、現地の名物料理を食し、種々アクティビティを体験した上で、台湾人留学生2名を含む女子短大生として友達にも紹介したいスポットを抽出、写真撮影を行った。

(3) ガイドマップ試作作業 (鹿児島、令和元年10月下旬~11月)

アンケート調査と第一回現地調査を踏まえ、メンバー全員委で意見交換を行い、以下に示すプロセスでガイドマップ作成の方向性について検討した。

- ①台湾人留学生、ベトナム人留学生、日本人学生それぞれに奄美大島の人気観光スポットの写真を見せ、好ましいと思う要因は何か、その理由は何かについて、マーケティング調査などで利用されている評価グリッド法を参考に、それぞれの評価構造を調査した。

その結果から、以下の内容が抽出された。

- ・単にきれいな海だけでなく、固有の文化・要素のプラスアルファが欲しい
- ・行って見て、体験・体感したい
- ・台南など、地域によってはマングローブは珍しくない
- ・島、固有の文化に興味がある

- ②ガイドマップで紹介する情報の粒度を第一回調査で収集した観光資料から検討した。その結果、現状の資料は以下の傾向があるとメンバー間での意見が集約した。

- ・種類がたくさんで、どれを見てよいか分かりにくい。
- ・個別のスポットの詳細パンフレットが用意されているが、目的のものがあるか分からない。
→欠品して、在庫がないこともある。
- ・やりたいアクティビティが、どこでできるか分かりにくい。
- ・それぞれのエリアの特徴が一見して分かりにくい。

この結果を踏まえて、島全体を「ざっくり」紹介するガイドマップが良いとの結論となり、また一枚の紙では限界があるため、希望の場所をクリックすると、より詳細な情報あるいは画像が表示されるインタラクティブ・マップ(操作式の電子マップ)を作成することとした。

- ③インタラクティブ・マップの試作

第一回調査の結果を踏まえ、マイクロソフトのパワーポイントを使用してインタラクティブ・マップの試作

を行った。このマップでは、奄美大島を「北部」「中心部」「中南部」「中西部」「南部」に分け、紹介スポットが多い、「北部」「中心部」について、エリアごとの紹介マップ、それぞれのスポットのフォトアルバムがクリックすると表示されるように形で制作した。同時に、これまでの活動経過を説明するプレゼン資料も作成した。

(4) 第二回現地調査、中間報告・意見交換会（奄美大島、令和元年12月19日～22日）

今回は、制作メンバーチームとしての大島訪問で、初日に奄美市役所を訪問し、総務部企画調整課および観光課の方々に対し、いままでの活動内容をインタラクティブ・マップの試作版の説明を行った（資料3参照）。その結果、島を5エリアに分けるのではなく4エリアが良いのではないか、島までの海外からのおおよその所要時間を記入した方が良いのではないかなどのご意見をいただき、インタラクティブ・マップの最終版に可能な範囲で反映することとした。

2日目以降は、第一回調査で見学できなかった「ハートロック」などのスポット調査、「機織り体験」などのアクティビティを実際に試し、紹介文などの検討を行った。また、新しい地域おこしの試みとして注目されている「伝泊」を訪問し、概要のヒアリングとインタビュー調査を行った。そこでは、外国人のバックパッカー旅行者や島外の学校からの研修旅行も想定した「場」と、地域の方々との交流を支援する「場」の両側面を促進する活動を行っているとの事であった。インタラクティブ・マップを紹介したところ、島の全体像を把握するのに効果的ではないかとのご意見もいただき、メンバーの励みにもなった。

(写真1) あまみ大島観光物産協会における聞き取り調査（令和元年10月24日）



(写真2) 奄美大島市役所における聞き取り調査 (令和元年10月24日)



第二回調査、中間報告・意見交換会 (令和元年12月19日～22日)

(写真3、4) 奄美市役所での中間報告・意見交換会 (令和元年12月19日)





7. 成果

①全体概要

当初クルーズ船観光客を対象とする調査を実施する予定であったが、クルーズ船の寄港が9月をもって中止となり、当初予定していた調査が不可能になった。しかし、その反面で予定していなかった収穫もあった。現地では、クルーズ船観光客の存在自体が観光関係者のみにしか認識されておらず、早朝到着し、夕方にはクルーズ船に戻ってしまうクルーズ船客の経済効果は限定されていると実感した。シーズンオフという時期的な問題もあるかもしれないが、クルーズ船以外の交通による来島外国人観光客はほとんど見かけなかった。奄美大島自体は魅力あふれる土地であるため、今回の観光マップを含めた今後の広報活動により集客が望める一方、レンタカーでないと行くことが困難な場所も多く存在するため、将来的には交通機関の充実などが望まれる。

参加学生たちは台湾人の目線からみる奄美大島という意識を持ったうえで島内を巡り、島内の名産物を食した。奄美大島はその他の日本の地域と比べると気候や自然環境なども台湾と似通っていると当初イメージを抱いていたが、雨が多い気候や動植物なども大きく異なりアピールできる箇所も判明した。例えば、台湾南部にもマングローブの森があるため台湾人には興味がないと想定していたが、台湾ではエンジン付きのボートで回るのに対し、日本ではカヌーで回るため、台湾人学生たちはその点に興味があるようであった。また、名物の鶏飯に関しても、台湾の「鶏肉飯」に似ていると思っていたが、味付けやだし汁を入れて食べる食事法などが大きく異なり、台湾人にもアピールできると実感した。学生たちは台湾や日本のその他の地域と異なる奄美大島の独自の文化に直に触れることができ満足した一方、奄美大島の現状の観光の問題を認識できた点が成果として挙げられる。

②インタラクティブ・マップについて

第二回調査の結果も踏まえて、インタラクティブ・マップの最終版完成に向けて作業を進めている。このコンテンツについては、短大のイベントや観光イベントでの利用を想定しており、短大生が描いたイラスト・マップで自分が興味をもったスポットについて情報を得られるので、能動的に奄美大島全体を把握できるのではないかと考えられる。また、インターネットを介して配布することも可能であり、必要な人が必要な時にダウンロードして活用できる。

資料1 台湾での奄美大島認知度調査

ガイドブック

書名	作者	出版社 (出版場所)	出版年	記述 (記述のあるページ)
超漫遊	TAC 出版編集部	東販出版	2019年	なし
九州搭車趣	昭文社	楓書坊	2018年	なし
親子遊九州	MAPPLE 昭文社編輯	人人出版	2018年	なし
以下、参考までに与論島の記載				
日本絶景之旅	K&B PUBLISHERS	人人出版	2018年	42, 43 ページ 与論島の百合ヶ浜の行き方と紹介 与論島のみでの行き方 茶花市街：与論島唯一の商業街 ミコノス通り ウドノスビーチ：夕日を眺めるの人気スポット 海カフェ：主にギリシヤのデザートを売っている ハジピキパンタ：与論島一番の展望台 サザンクロスセンター：与論島の原始文化を展示されている
沖縄旅遊全攻略	張文浩	正文社	2019年	地主 (琴平) 神社：毎年の旧暦の3、8、10月の15日に十五夜踊りを行っている 赤崎鍾乳洞 与論民俗村：島の文化を保存されている 創作ダイニング：与論島料理 百合ヶ浜：予約が必要そう
開始在沖縄自助旅行	酒雄	太雅	2016年 2017年 2018年	与論島の観光地やレストランなどの紹介 大金久海岸：私営の商店 Café coco：カフェとバーを組み合わせたお店

インターネット・SNS

与論島ビレッジ：鶏飯が有名
百合ヶ浜
サザンクロスセンター
与論シーマンズクラブシーマンズ食堂：島の家
庭料理
与論城跡：地主（琴平）神社はここにある

URL	作者	記述
https://www.tsunagu.jp.com/zh-hant/five-reasons-to-amami/	Joyce (tsunagu Japan 的撰稿人兼翻譯)	五つ必ず奄美大島に行く理由 土盛海岸や倉崎ビーチやハートロックなどきれいな景色を紹介。 奄美大島で大人気の店「ひさ倉」と「番屋」も紹介。
https://zh.compathy.net/magazine/2019/04/05/amamioshima-sightseeing/	Mrs. Endo	奄美大島のお勧めの観光名所 「あやまる岬」や「金作原生林」や「奄美 PARK」などいろいろな名所を紹介して、奄美大島での「ウエストコート奄美」と「ダイヤモンド」というホテルのサイトや値段や住所を書いてあります。 そして、「healthy island café」というカフェの大人気のアイスも紹介して、「あまみ黒糖ショコラ」や「奄美の黒うさぎ」というお土産をお勧めです。
https://matcha-jp.com/tw/1987	翻譯者 Virginia M 作者 Keisuke Yamada	五つ必ず奄美大島で実際に体験すること 「金井工芸」と「前田紬工芸」という場所に行って、奄美で特別な工芸を体験することを紹介しています。 そして、ウインドサーフィンを体験することを書いてあります。
http://kila520520.pixnet.net/blog/post/351267116-%E9%B9%BF%E5%85%92%E5%B3%B6-%E5%A5%84%E7%B3%8E%E5%A4%A7%E5%B3%B6	kila	奄美大島の一日程 鹿児島から奄美大島までどうやって行くのか。 あと、「マングローブパーク」と「大浜海浜公園」の紹介を書いてあります。
https://tw.tokyocreative.com/articles/31017-shi-yan-mei-da-can-san-jia-	Takashi Nishiki	奄美大島の三つレストランを紹介しています 「奄美居酒屋ごっばち」と「奄美市農林産物直売所ゆていもれ」と「島とうふ屋」というレストランでの感想を書いてあります。